

## 1 単元名 Sunshine English Course2 My Project5 スピーチをしよう - こんな人になりたい

## 2 単元設定の理由

## ①単元の価値

本単元では「スピーチをしよう～こんな人になりたい～」と題して、モデル文を通して英文の構成を知り、実際に原稿を仕上げるライティング活動と発表を行うスピーキング活動を行う。学習指導要領にもある、「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように文と文のつながりなどに注意して書くこと」と「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること」をねらいとしている。言語はコミュニケーションのための一手段であり、そのコミュニケーションは相手がいることで成り立つといった言語学習の基本を再確認し、その為の力を育成するのに最適である。また、「自分の身近な人や憧れの人について書く」というテーマは生徒の自主性や創造性を引き出しやすい題材でもあり、普段、英語学習に消極的な生徒の意欲を高めるにも適していると考えられる。加えて、接続詞や不定詞、動名詞などといった今学期の既習事項を用いることで、各文法事項をより一層理解することに繋げることができると思われる。

## ②単元の構成 (単元分析)

本単元は、モデル文を読み、その構成を理解し、相手に伝わるためにはどのような文章構成を行えば良いかを知ることから始まる。スピーチ原稿の構想を練る際には、3部構成にして考えることとし、より分かりやすい原稿を作成することを目標とする。併せて、既習事項の接続詞、不定詞、動名詞にも触れ、自分のスピーチで使用できそうなものを確認させる。最終的には自分のスピーチ原稿の発表練習を行い、友だちの前で発表することで、既習事項の活用及び言語表現の力を育成することができる統合型の単元である。

## ③生徒の実態

本学級の生徒は、学習したばかりの文法であれば、それを使用した文を書ける生徒が多いが、短文かつ難易度の低い英単語に偏る傾向にある。また、学習してから一定の期間が経つと、活用方法を忘れてしまい、定着していないことが多く見受けられ、英語運用力という点では非常に弱いことが窺える。「まとまりのある英文を書くこと」を苦手とする生徒が多く、ライティング力育成が大きな課題である。加えて、既習語句であっても英単語の発音に自信が持てない生徒が多く、適切な音声指導が必要である。

一方で、班内で男女問わず助け合い、アドバイスをし合うことができるといった強みを持っており、学び合いの場面を取り入れることで、より質の高い原稿作成・発表ができると考える。

## ④指導観

本単元では、「相手に伝わる」ことを目的として、原稿作成及び発表を行うことを第一の目的としていることを徹底して生徒に伝えた上で活動を進めていきたい。そのため、分かりやすい文章構成や音声・発表指導に重点を置きたい。特に、不定詞を使用し、自分の希望や行動の目的を述べることで、より具体的な文章を書くように指導していく。また、クラス全員が原稿を完成させ、発表練習まで行うことができるように、原稿作成・発表練習の各段階でグループ内での意見交換やアドバイスの場面を設定し、自分のスピーチに自信を持てるようにしていきたい。

### 3 単元目標

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】自分の考えが伝わるように、積極的にスピーチ作成・練習をしようとしている。

【外国語表現の能力】自分の考えをスピーチ原稿にし、適切な音声・態度で発表することができる。

【外国語理解の能力】モデル文を読んで、文章内容・構成を理解することができる。

【言語や文化についての知識・理解】自分の考えが相手に正しく伝わるように、文構造や文章構成に注意して文章を書くことができる。

### 4 単元の指導計画（全4時間）・・・評価計画は別紙

第一次	モデル文の構成を理解する。	・・・1時間
第二次	自分のスピーチ原稿の構想を練る。	・・・1時間
第三次	原稿を書く。	・・・1時間
第四次	スピーチをする。	・・・1時間（本時）

### 5 本時の価値

スピーチは相手がいて初めて成り立つものである。いかに相手に伝わりやすいスピーチができるかは、文章の内容だけでなく、発表の仕方が鍵を握る。発音、抑揚といった音声面と声の大きさ、スピード、アイコンタクトを含めた態度面の双方を大切にすることで、コミュニケーションに必要な力を育成することができる。また、発表を聞き、それに対するコメントを述べることで、聞く側の態度も重要な役割を果たすことに気付かせることができる。

### 6 本時の学び合い（課題追求）の意図

まずはグループ内で自分のスピーチを行うことで、個人練習では気付かなかった自身の課題に気付きやすくなる。発音が苦手な生徒にとっては一文が短い場合であっても、発音に自信を持ってないことが発表の態度面でマイナスに繋がることから、適切な発音の仕方に気付かせ、自信を持って発表に臨ませるようにしたい。また、教師のチェックを受けた後、自分の課題を達成するにはどうしたら良いかグループ内で共有することで、自分のことだけでなく仲間のことを考えながら行動できる態度の育成を目指したい。

### 7 本時のねらい

相手に伝わるように、留意点に気をつけてスピーチをすることができる。

### 8 基礎・基本の習得事項

- ①スピーチをする際の留意点を理解している。※留意点「発音、抑揚、声の大きさ、目線」
- ②正しい英語の発音で読むことができる。

### 9 振り返りの方策

自分自身のめあての達成度を5段階評価で評価すると共に、記述で振り返る。

	学習活動	指導上の留意点と◇評価
導 入	1. 英語の歌を歌う。 2. 前時の学習を振り返る。	・授業の雰囲気作りを意識して元気よく歌わせる。
展 開	3. 本時の目標を確認する。	・学習のめあてを示し、見通しを持たせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">相手に伝わるように、スピーチをすることができる。</div> 4. スピーチをする際の留意点を確認する。  5. スピーチ練習 個人 → 教師のチェック → グループ <b>【学び合いの場面】</b>  6. 全体の前で発表を行う。	・スピーチの練習前に留意点を具体的に提示する。 <b>『発音、抑揚、声の大きさ、目線』</b>  ・注意点を基に個人練習を行う。 ・一人一人、教師のスピーチのチェックを受ける。 事前に全員文のスピーチ原稿をコピーしておき、改善の手助けとなるようなアドバイスを記入して渡す。 ・グループ内で互いに発表を聞き合い、音声・態度面でのアドバイスを行う。 ・スピーチチェックに合格した生徒は、グループ内の他の生徒への支援、手助けを行う。 ◇自分のスピーチ原稿を、適切な音声・態度で読むことができる。 <b>【外国語表現の能力】</b> <Cの生徒への手立て> ・時々、原稿を見ながらも顔を上げてスピーチに取り組むように促す。 <Aの生徒への手立て> ・原稿を見ずに顔を上げ、発音・抑揚に気をつけながらスピーチをするよう促す。  ・指名された生徒はクラス全員の前でスピーチを発表する。 時間があれば、多くの生徒を指名する。 ・スピーチを聞いて、ワークシートにコメントを記入し、何人かに発表をさせる。
ま と め	7. 本時の振り返りをする。  8. 教師のまとめを聞く	・具体的なめあての達成度をワークシートに記入させる。(5段階評価と記述) → 回収  ・単元のまとめと今後の学習への展望について話す。